学校の再編にあたっての基本的な考え方

資料８

1 これからの教育を実現するための検討

①「令和の日本型学校教育」

子どもたちの多様化

- 発達障がいの可能性のある子ども
- 特異な才能のある子ども
- 不登校、不登校傾向の子ども
- 家庭環境の違い（ヤングケアラー含）
- 外国人児童生徒

など

「個別最適な学び」 その子に合った学習ができる学校
「協働的な学び」 多様な他者と協働できる学校
の整備が必要。

②「門真のめざす教育」

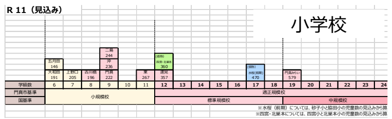
門真のめざす子ども像
「将来の自立をめざして自分の生き方を見つける子ども」

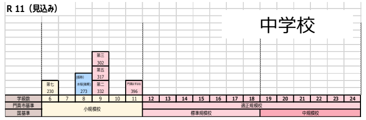
「縦のつながり」（異年齢・大人など）
「横のつながり」（子ども同士・地域）
「将来の自分とのつながり」（縦・横のつながりの中で成長してしていく将来の自分とのつながり）

９年間という連続性の中で子どもたちを育てていく視点に立ち、**小中一貫教育**をより一層進めていくことが必要。

2 児童生徒数を考慮した検討

児童生徒数が今後も減少する見込みの中、子どもたちが多様な人間関係の中で学び、人とのつながりを創るためには、一定数の児童生徒がともに学び、**「横のつながり」**の中で育つ環境が必要となる。**既に単学級になっている、また、将来的に単学級となることが見込まれる場合**などについては、速やかな検討が必要。



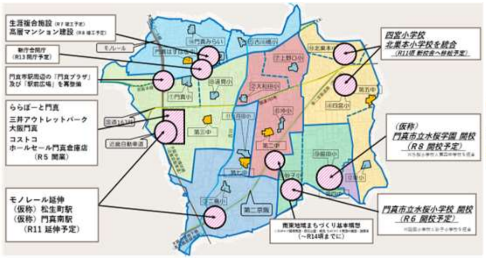


3 老朽化した校舎への対応

高度成長期の人口急増に合わせて、同時期に建設された門真の学校は、**そのほとんどが建設後、50年以上が経過**している現状があり、建替えや改修を検討する時期にもなっている。
快適で楽しく過ごせる場所としてのこれからの学校づくりを考えるにあたっては、**学校施設の築年数や過去の大規模改修の状況等を考慮**した検討が必要。

4 今後のまちづくりを考慮した検討

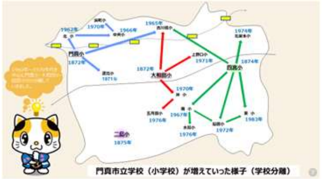
今後大きく門真のまちづくりが進む予定であり、その結果、エリアによっては、**未就学児や児童生徒の増加、または、現在の推計よりも減少しない可能性**がある。これらの可能性も踏まえた上で、学校統合や大規模改修等を含めた学校のあり方についての検討が必要。



5 学校の変遷を踏まえた検討

門真の小学校は、**旧村の４つの小学校（門真小学校、大和田小学校、四宮小学校、二島小学校）から分離設置されてきた歴史**や、**これまでの再編の経緯なども考慮**しながらの検討が必要。

1935年ころの村


門真市立学校（小学校）が増えていった様子（学校分離）